

大 使 館 情 報

2017年12月

【目次】

1. ブラジル・マクロ経済情勢

- (1) 経済情勢等（11月発表の経済指標）
- (2) 経済政策等
- (3) 中銀の金融政策等
- (4) 為替市場
- (5) 株式市場

2. ブラジル政治情勢（11月の出来事）

[内政]

- (1) テメル大統領の健康問題
- (2) 汚職捜査関係
- (3) その他

[外政]

- (1) ベネズエラ問題
- (2) 国際司法裁判所（ICJ）裁判官選挙での伯候補当選
- (3) ヌネス外務大臣による欧州・中央コーカサス諸国訪問
- (4) E-VISA（電子査証）の導入
- (5) ブラジル・パラグアイ関係
- (6) ブラジル・メキシコ関係
- (7) エジプトにおけるテロ
- (8) ブラジル・ボリビア関係
- (9) ブラジル・ベラルーシ関係
- (10) 北朝鮮の弾道ミサイル発射に対するブラジル政府の非難声明

3. トピックス

- (1) 山田大使のサンパウロ州ノロエステ地方及び汎パウリスタ地方訪問
- (2) 百歳以上高齢者表彰式の実施（在サンパウロ日本国総領事館）

4. 大使館からのお知らせ

- (1) 文化イベント
- (2) 外務省 海外安全ホームページ
- (3) ブラジル渡航情報

1. ブラジル・マクロ経済情勢

(1) 経済情勢等 (11月発表の経済指標)

(ア) 中銀が週次で発表しているエコノミスト等への調査に基づく GDP 成長率予測に関し、11月24日時点では、2017年の GDP 成長率は0.73%で5週連続の横ばい、2018年の GDP 成長率は2.58%とされた。また、2017年のインフレ率見通しは3.06%で先週から下方修正、2018年のインフレ率見通しは4.02%とされた。

(イ) ブラジル地理統計院 (IBGE) が発表した2017年第3四半期 (7～9月) の GDP 成長率は、前年同期比+1.4%で2四半期連続のプラスを記録したほか、前期比でも+0.1%で3四半期連続のプラスを記録した。

(ウ) 10月の拡大消費者物価指数 (IPCA) は単月で0.42%となり、前月の0.16%から上昇した。また、過去12か月累計では2.70%となり、政府のインフレ目標 (4.5%±1.5%) の下限値を更に下回る水準で推移している。

(エ) 9月の鉱工業生産指数は、前年同月比+2.6%で5か月連続でプラスを記録したほか、前月比では+0.2%となり、3か月ぶりにプラスに転じた。

(オ) 10月の貿易収支は、輸出額は188.74億ドル (前年同月比+37.6%、前月比+1.2%)、輸入額は136.76億ドル (前年同月比+20.2%、前月比+1.4%) で、差引き51.98億ドル (前年同月比+122.3%、前月比+0.5%) となり、32か月連続で貿易黒字を記録した。

(カ) 9月の小売売上高は、前年同月比+6.4%で6か月連続でプラスを記録したほか、前月比では+0.5%となり、3か月ぶりにプラスに転じた。

(キ) 全国の失業率 (8～10月の移動平均) は12.2%となり、前回の公表値 (7～9月の移動平均) から0.2%下落して7か月連続で改善した。

(2) 経済政策等

(ア) 11月6日、テメル大統領は、与党指導部との会談において、年金制度改革は個人的な目標ではない、年金制度改革なしには雇用の創出に貢献できず、社会保障関連の赤字をカバーしうる政府の投資を妨げるであろうと発言した。

(イ) 11月8日、メイレス財務大臣は、テメル大統領及び与党指導部との会談の後に報道陣のインタビューに応じ、年金制度改革を年内に承認することにより、2018年以降の経済成長と財政の安定化に寄与すると発言した。

(ウ) 11月22日、ブラジル連邦議会下院は、年金制度改革に関する憲法改正案について、民間企業の被雇用者の最低納付期間を25年から15年に短縮する等の修正案を発表した。

(3) 中銀の金融政策等

11月は政策金利 (Selic) を決定する中銀の金融政策委員会 (Copom) は開催されていない。次回会合は、12月5・6日に開催。

(4) 為替市場

(ア) 11月のドル・レアル為替相場は、1ドル3.2～3.3レアル台の比較的狭いレンジで推移したものの、年金制度改革の採決をめぐって神経質な展開となった。

(イ) 月の前半は、原油価格の上昇を受けてレアルが買われる場面もあったものの、その後は年金制度改革の議会通過をめぐる情勢に不透明感が広がったことに加え、原油価格の反落を受けてレアルは一時1ドル=3.3レアル台まで下落した。

(ウ) 月の後半は、米国のロシアゲート疑惑関連報道等を受けてドルが売られたことに加え、年金制度改革の年内の採決に楽観的な見方が広がったことを受けて、レアルは堅調に推移した。その後は、月末にかけて年金制度改革の採決に不透明感が高まったことで、レアルは再び下落した。月末は1ドル=3.2681レアルで取引を終えた(前月比0.1%のドル安・レアル高)。

(5) 株式市場

(ア) 11月の伯の株式相場(Ibovespa指数)は、為替市場と同様に、年金制度改革の採決をめぐる神経質な展開となった。

(イ) 月の前半は、テメル大統領が年金制度改革について年内の議会通過ができない可能性を示唆したことで大きく下落し、その後も原油価格の反落を受けて資源銘柄を中心に売られる展開となり、株価指数は一時70,000ポイント台まで大幅に下落した。

(ウ) 月の後半は、消費関連銘柄等で買戻しの動きが出たことに加え、年金制度改革の年内の採決に楽観的な見方が広がったことを受けて、株価指数は74,000ポイント台まで再び上昇に転じた。その後は、月末にかけて年金制度改革の採決に不透明感が高まったことで、株価指数は反落した。月末の株価指数は71,970.99ポイントとなり、前月比▲3.1%の下落となった。

2. ブラジル政治情勢(11月の出来事)

【内政】

(1) テメル大統領の健康問題

(ア) 1日、テメル大統領は、前月27日にサンパウロ市内の病院で前立腺肥大症の手術を受けるも職務に復帰。

(イ) 24日、テメル大統領は、サンパウロ市内の病院に入院。冠動脈血栓除去のための心臓のカテーテル手術を受けるも、27日に退院し、同日午後に職務に復帰。

(2) 汚職捜査関係

(ア) 5日、ピシアーニ・スポーツ大臣に対して保健省への入札に関する不正疑惑が浮上。同大臣はこれを否定。しかし、14日、連邦警察は、収賄容疑でピシアーニ大臣の父(リオデジャネイロ州議会議長)、また、資金洗浄の容疑で同大臣の弟を逮捕。

(イ) 16日、連邦検察庁は、ブラジル空軍次期主力戦闘機選定及び自動車メーカーに対する税制上の優遇措置延長を巡る不正疑惑に関し、ルーラ元大統領及びその子息の資産(合計2,400万レアル)の凍結をブラジル連邦裁判所に請求。

(ウ) 22日、司法高等裁判所は、アルキンミン・サンパウロ州知事の不正疑惑に関する連邦検察庁の捜査許可請求を受理。連邦検察庁によれば、同知事は、2010年及び2014年の選挙においてオーデブレヒト社から違法献金(約1千万レアル)を受け取ったとしている。

(3) その他

13日、アラウージョ都市大臣（PSDB）が自ら辞任。後任にアレシャンドレ・バルディ下院議員（PP）が、22日就任。

【外政】

（１）ベネズエラ問題

11月4日、ブラジル外務省は、リマ・グループ（亜、伯、加、チリ、コロンビア、コスタリカ、グアテマラ、ホンジュラス、墨、パナマ、パラグアイ及びペルー）として、ベネズエラ最高裁が国民議第一会副議長の議員特権を剥奪し国外渡航を禁じる決定を行ったことを非難する共同声明を發出。

（２）国際司法裁判所（ICJ）裁判官選挙での伯候補当選

11月10日、国連においてICJ裁判官選挙が行われ、伯の現職判事であるカンサード・トリンダーデ候補が再選。ブラジル外務省はこれを祝福する旨の声明を發出した。

（３）ヌネス外務大臣による欧州・中央コーカサス諸国訪問

11月13日～17日、ヌネス外務大臣はイタリア、アゼルバイジャン、ジョージア、アルメニアを歴訪（後者3カ国は伯外相初訪問）し、各国で外相等と会談。イタリアでのアルファード・イ外相との会談では、2007年に発足した戦略的パートナーシップの強化に向けた二国間課題、EU・メルコスールFTA、伯のOECD加盟、グローバルな課題等につき協議が行われた模様。

（４）E-VISA（電子査証）の導入

11月21日、ブラジル外務省は日本を含む4か国（他に豪、加、米）に対して電子査証（E-VISA）をすることを発表。日本については、明年1月11日から導入される予定。

（５）ブラジル・パラグアイ関係

11月23日、ロイサガ・パラグアイ外相が訪伯。ヌネス外務大臣との間で自動車協定を含む二国間の課題につき協議。会談終了後、両外相は、国境地帯の隣接居住地に関する協定に署名。

（６）ブラジル・メキシコ関係

11月24日、ビデガライ・メキシコ外相が訪伯。ヌネス外務大臣との間で、二国間経済補完協定、メルコスール・太平洋同盟間の協力などについて協議。また、両外相は、2030アジェンダを二国間の技術協力戦略に取り入れる可能性についても協議した模様。

（７）エジプトにおけるテロ

11月24日、ブラジル外務省は、同日、エジプトのシナイ半島のモスクにおいて数百人の死傷者が生じたテロ事件に関し、犠牲者への哀悼とテロ行為を非難する声明を發出。

（８）ブラジル・ボリビア関係

11月27日、エボ・モラレス・ボリビア大統領の訪伯が予定されていたが、テメル大統領の心

臓手術のため再度延期となった。右を受け、伯外務省は同日、モラレス大統領の訪伯は12月5日の予定と改めて発表。

(9) ブラジル・ベラルーシ関係

11月27～29日、カリニン・ベラルーシ副大統領が訪伯。同副大統領は、27日、ヌネス外務大臣と会談、28日、ゴイアス州にてペリロ同州知事と会談を行うと共に、29日、サンパウロ州工業連盟（FIESP）におけるビジネスフォーラム等に出席した。

(10) 北朝鮮の弾道ミサイル発射に対するブラジル政府の非難声明

11月30日、ブラジル外務省は当地時間28日の北朝鮮による弾道ミサイル発射を非難する声明を発出した。

3. トピックス

(1) 山田大使のサンパウロ州ノロエステ地方及び汎パウリスタ地方訪問

11月24日から26日まで、山田大使は野口サンパウロ総領事と共にサンパウロ州ノロエステ地方（アラサツバ、プロミッソン、カフェランジア、リンス）及び汎パウリスタ地方（マリリア）を訪問した。

各地では日系団体はじめ地元の皆様より心温まる歓迎を受け、とてもなごやかな雰囲気の中、山田大使及び野口総領事は出席者の方々との交流を深めた。

それぞれの歓迎会には、日系団体関係者、在留邦人、市長、連邦・市議会議員など大変多くの方々が出席した。

山田大使は、各地での挨拶において、まず自身のこれまでのブラジルとの関わりを紹介した上で、日本とブラジルの関係が幅広い分野で力強く進展していることを喜ばしい、今日の日ブラジル友好協力関係は、日本人移住者、日系人の皆様による長年に亘る大変なご尽力があってこそであり、日系社会の方々に深く敬意を表するとともに、日ブラジル関係発展へのご協力に心から感謝申し上げる旨述べた。

また、ブラジルに着任してまだ数ヶ月であるが、早い時期にこの土地を知ることが大切であると思ってきた旨述べた。

更に、来年は日本人のブラジル移住110周年の大切な節目の年であり、日系社会の一層の発展と日ブラジル関係の更なる飛躍の年となることを期待する旨、引き続き出席者の方々の御協力も得て、日ブラジル関係をさらに前進させたい旨述べた。

(2) 百歳以上高齢者表彰式の実施（在サンパウロ日本国総領事館）

11月7日、在サンパウロ総領事公邸にて、百歳以上高齢者表彰式を行った。今年は世界19箇所の在外公館で54名が表彰されたが、そのうちサンパウロ総領事館管内は、28名と半数以上の対象者であった。

表彰式当日には、12名の受表彰者が出席され、ご子息やお孫さんに見守られる穏やかな雰囲気の中、来賓など多くの方々から祝福の言葉がかけられた。

野口総領事は祝辞で、人生の模範を多くの後輩に示して頂いたことへの感謝とともに、ご

家族やご友人の支えに対し敬意を表した。また、日本では人生 100 年時代を見据えた経済・社会システムの検討を行うため「人生 100 年時代構想会議」が官邸に設置され検討が進められていることを紹介した。



4. 大使館からのお知らせ

(1) 文化イベント

2017 年日本語能力試験

日時：12 月 3 日（日）

場所：マナウス、ベレン、サルバドール、ブラジリア、リオデジャネイロ、サンパウロ、ロンドリーナ、ポルトアレグレ

内容：全世界で同時に実施される日本語を母語としない人の日本語能力を測定し認定する試験。マナウス、ベレン、サルバドール、ブラジリア、リオデジャネイロ、サンパウロ、ロンドリーナ、ポルトアレグレの 8 か所で実施。

がーまるちょぼブラジル公演（ブラジリア、サンパウロ）

日時：①12 月 8 日（金）（ブラジル）

②12 月 9 日（土）（サンパウロ）

③12 月 10 日（日）（サンパウロ）

場所：

①Teatro Funarte Plínio Marcos - Eixo Monumental - Setor de Divulgação Cultural, Lt 2 (Entre a Torre de TV e o Clube do Choro) - Plano Piloto, Brasília)

<http://www.funarte.gov.br/espaco-cultural/teatro-funarte-plinio-marcos/>

②第 4 回 CCXP2017 - São Paulo Expo Exhibition & Convention Center Rodovia dos Imigrantes, Km 1,5 - São Paulo

<https://www.ccxp.com.br/>

③Teatro Gazeta - Av. Paulista, 900- Bela Vista, São Paulo

<http://www.teatrogazeta.com.br/>

内容：世界的に活躍しているコメディ・デュオ「がーまるちょぼ」を日本からブラジルに招へいし、言葉や文化を超えたサイレントコメディの公演を実施する。

URL：<http://fjssp.org.br/agenda/gamarjobat-no-brasil-2017/>

リオデジャネイロ州近郊鉄道ブラジル中央駅での日本文化紹介イベント（リオデジャネイロ）

日時：12月12日（火）～14日（木）

場所：リオ中央駅

内容：リオデジャネイロ州近郊鉄道の事業会社である Supervia 社及び三井物産株式会社、西日本旅客鉄道株式会社及び株式会社海外交通・都市開発事業支援機構（JOIN）と共催で、ブラジル中央駅において、日本を体験できる日本文化紹介イベントを実施。

老人ホームにおける和食紹介事業（クリチバ）

日時：12月13日（水）

場所：純心聖母の家

内容：純心聖母の家（老人ホーム）にて、在クリチバ日本国総領事の公邸料理人が和食に関するプレゼンテーションを実施する

（2）外務省 海外安全ホームページ

各国の危険情報や安全対策など、海外赴任、出張及び旅行をする際の留意点が掲載されている。

<http://www.anzen.mofa.go.jp/>

（3）ブラジル渡航情報

（ア）危険情報

5月9日付で内容を改訂したので御確認いただきたい。以下の地域が「レベル1：十分注意してください。」となっているので、詳細をホームページで確認いただきたい。

- ・ブラジリア連邦区（継続）
- ・サンパウロ州大サンパウロ圏及びカンピーナス市（継続）
- ・リオデジャネイロ州大リオ圏（継続）
- ・アマゾナス州大マナウス圏（継続）
- ・パラ州大ベレン圏（継続）
- ・ペルナンブコ州大レシフェ圏（継続）
- ・バイア州大サルバドール圏（継続）
- ・エスピリトサント州大ビトリア圏（継続）
- ・パラナ州大クリチバ圏（継続）
- ・リオ・グランデ・ド・スル州ポルトアレグレ市（継続）

http://www.anzen.mofa.go.jp/info/pcinfectionsbothazardinfo_259.html

（イ）安全対策基礎データ

主要各州、都市毎の犯罪発生状況、防犯対策及び滞在時の留意事項等に加え、査証、出入国審査や大使館、総領事館の緊急連絡先が掲載されている。

<http://www2.anzen.mofa.go.jp/info/pcsafetymeasure.asp?id=259>

（ウ）テロ・誘拐情勢

<http://www2.anzen.mofa.go.jp/info/pcterror.asp?id=259>